

ペアレンツキャンプ先生方

拝啓

この度、3年間の復学支援をお陰様で卒業する運びになり、先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

娘は、この春才1希望の高校1年生になりました。3年前の姿を思い出すとウソのようです。

小学6年生の時に中学受験で自分の思い通りに勉強ができず、成績が上がらず苦しくなりました。同時に学校へも行かなくなりました。当時は布団をかぶって出てこいとせり、「こつおたのは親のせいだ」と文句を言ったり、親を蹴ったり等 暴カも出ていました。

本人の性格によるものや受験ストレスが原因で不登校になってしまったと思っていました。

学校や地域の支援センター、スクールカウンセラーに相談し、「ふいふい学校に戻してあげたいと必死でした。子どもの気持ちもわからず

本当の原因も何かわからず、「やっぱり休ませてあげ
ましょ」という言葉を信じて不登校を続けて
いました。中学では入学式には行けたものの、
翌日からまた休み続ける日々に戻ってしまっ
ました。そんな時、本屋で見つけた水野先生
の『無理に学校に行かなくてもいいよ本当か?』
を読みました。私が思っていた、やっぱり行く
に決まってる、学校に戻る為に働きかける
こと、それに不登校の原因は子どもにあるのでは
なく、親のかわり方に問題があるということ、
親が変われば子どもが変わるということが書いて
ありました。自分が大きな思い違いをしていた
ことがわかり、この本、という見いで早速、
夫にも一緒に読んでもらいました。

そして、ペアレントキャンプに相談をし、支援を
お願いしました。

今までの経過や子どもの様子をお話すると
年相応の成長が見られていないことや、親の
対応が子の上位を助長している、過保護、
過干渉だという指摘がありました。

学校に行っていないことに対しても、現状は家にいても何のデメリットもなく、楽い不登校にたおているといわれ、先生のご指摘は全て納得できるものでした。

支援では、今後の対応を変えるために、会話文を先生に送り添削してもらいそこから始めました。

客観的に見ると、いかに自分が子のためによかれと思って余計な口出しをしていたのか気がかりでした。大人として経験が多いが、どうしても失敗がある前にアドバイスをして、自分で考える機会を奪っていたり、自分でできることを先回りしてやっておげてしまっていたという。そのせいで、家での生活と学校での生活にギャップがあり、学校での生活が苦くなってしまったというでした。

夫婦でまずは『命令・指示・提案』をしてはいけないことを気をつけました。また、「ねえ、〜はどうしたらいい？」と依存のあることばが少なくなったので、「そりねえ、ママにはわからない

「あ」と答えを出すと、自分で考えさせるようにしました。

また、週3回の電話相談では子の様子を伝えどの様な対応をしたらよいかを細やかにアドバイスをいただきました。

娘の将来を思うと日々、不安でいっぱいでしたが、「お子さんを信じましょう」といつも励ましてもらえたことは、本当にありがとうございました。

色々な場面で、自分で考え自分でやるという事を繰り返すようになって、自分に自信が付き、人間関係においても少しずつ楽しめるようになってきました。

長い長い間、いつも冷静に適切なアドバイスを下さった辻先生、そして水野先生、親の会で会うたびに担当の先生以外の先生も状況をよくわかって下さって、情報をしっかりと共有し皆さんで「復学の支援の方法を」考えられていることを知り、とてもありがとうございました。

これからも夫婦共々、気をゆるめず、先生方に教えて頂いたことを忘れずに、継続

登校を見守っていたと思います。

最後になりましたが、先生方におかれましては
体調等を崩されませぬよう、また益々の
ご健勝を（じよ）お祈り申し上げます。

本当にありがとうございました。

敬具

令和2年7月10日